

## MICHIKO OKANO

「日系ブラジル人アーティストのトランスナショナル概念— シオカヴァケンジと越石幸子」

“Transnational Perspectives of Nippo-Brazilian artists: Kenzi Shiokava and Sachiko Koshikoku”

### Abstract:

本講演では、シオカヴァケンジ（1938年サンパウロ州生まれ）と越石幸子（1937年福井県生まれ）という二人の日系ブラジル人アーティストの作品について論じる。前者は1964年にサンパウロからロサンゼルスに移住し、後者はその翌年、福井からサンパウロに移り住んだ。当時は二人とも二十歳代であった。シオカヴァは医学部の入試に失敗した後、芸術家として生きていこうと考え、無料で搭乗できる軍用機に乗ってブラジルからアメリカ合衆国に向かった。コシコクはよりよい仕事を見つけるとともに、当時の日本社会で女性が直面していた厳格な規則や偏見から逃れたいという思いで太平洋を越える旅路に出た。

シオカヴァのトーテムの木彫像から、彼のブラジル人としての背景、庭師という職業、そして、言うまでもなく彼の「日本精神」とロサンゼルスで築いたアフリカ系アメリカ人コミュニティとの親密な関係を読み取ることができる。越石は1971年にメキシコとペルーを旅し、その結果、彼女はラテンアメリカの古代文明（アステカ、マヤ、インカ）に触発された絵画を描き上げた。メキシコとペルーで、彼女はそれまでの長い間、自身が探し求めていたもの、つまり絵画、デザイン、そして文章を一つにした力強いイメージを見つけ出したのである。本報告では、この二人の芸術家の国を越えた移動に焦点を当て、そうした移動が彼らの作品に与えた新しいトランスナショナルな視点、つまり、マイノリティ同士の遭遇について論じたい。

### Representative works:

- Ma - Entre-espço da arte e comunicação no Japão. (Ma - In between spaces of art and communication in Japan). São Paulo: Annablume, 2012.

- Between Brazil and Japan: the Artists known as Nippo-Brazilians. In: Transpacific Borderlands: the Art of Japanese Diaspora in Lima, Los Angeles, Mexico City and São Paulo. Los Angeles: Japanese American National Museum, 2017. Catalogue of the exhibition.

- 日系ブラジル人アーティストの多様性. In: Global Art and Diasporic Art in Japan and Asia. Documentation of the Symposium co-organized by Mori Art Museum, New York University Asia 2015 Global Asia/Pacific Arte Exchange Initiative and the Integrated Human Sciences for Cultural Diversity Program, the University of Tokyo.